

収録・解説 酒井董美

語り手 根平こうさん
(明治41年生まれ)
平成5年12月6日

あらすじ

とんとん昔があったげな。

おじいさんとおばあさんがいて、毎日、おじいさんは山へしば刈りに、おばあさんは川に洗濯に行っていました。

おじいさんは一羽の雀をかわいがって飼っていました。

ある日、おじいさんがしば刈りに行った留守に、おばあさんは洗濯物に糊をつけようと思ったり、雀が知らぬ間に食べちゃってしまったので腹をたてたおばあさんは「おまえが糊を食べたな」と籠の中の雀の口を開け、鉋で舌を切っちゃった。

舌切りスズメ

(境港市朝日町)



イラスト・福本隆男

「舌切り雀」は「本格昔話」

きながら、

へ舌切り雀 こころころと雀の宿を捜しに竹藪へ行くと、向こうの方から

へキーコヤ キーコヤ カランコ トントン

カランコ トントン

カランコ トントン

カランコ トントン

カランコ トントン

カランコ トントン

カランコ トントン

カランコ トントン：

と機を織る音がするのでおじいさんは行く

と大喜んで、「おじいさん

とごちそうをうたう歌をうたう

り踊り踊りたりしてお

じいさんを慰めてくれま

した。

おじいさんは「名残惜

しいけど、わたしは帰る

から」と言つと、「それ

ではお土産をあげよう」と大きいつづらと小さい

つづらを持ってきて、「ど

つちがいいか」と言つ。

「年寄りだから小さいの

がいい」と小さいつづら

をもらって帰り、玄関で

開けたら、金銀珊瑚やお

金などいろいろな宝物が

入っていました。

意地悪おばあさんはそ

れを見て、「わしも行こ

う」と竹藪へ出かけて行

き、「雀、雀」と言つと

「意地悪のおばあさんが

来た」と言つたけれど、

「ちそうを出してあげま

した。おばあさんが「早

う帰るから土産をくださ

い」と自分から言つと、

大きいつづらと小さいつ

づらを出し、「どちらで

も気に入ったのを持って

帰って」と言えば「よし

よし大きい方がよい」と

肩に担いで帰って行きま

したが、早く宝物が見た

いので、道端で開けてみ

そうしたら、蛇とか大

きなヒキガエルとかお化

けの入道なんかいろいろ

出てきたので、おばあ

さんは腰を抜かしてしま

いました。こっぴり山の

解説

根平さんのお宅でこの話をうかがったが、一緒に訪問したのは鳥根大学に留学しているアメリカ人留学生のAさんをはじめ、中国からの留学生のSさん、Kさんのほかに、特別にM新聞社松江支局のM記者、そして筆者を含めて5人だった。

根平さんとはとても明るい方で、気持ちよく語りかけてくださった。関敬吾博士の『日本昔話大成』を引用するまでもなく、「舌切り雀」は「本格昔話」

「隣の爺」の中にその戸籍を持っている。

(元鳥取短期大学教授)

(水曜日に掲載)